

大好きな おばあちゃん

作：うんまくボケる戦略チーム

絵：小林 浩道



認知症地域支援体制構築等推進事業

長野県モデル地域 飯綱町

紙芝居 「大好きなおばあちゃん」

製作 うんまくぼける戦略チーム

青柳 範子

井澤 勇二

金子 美菜

木畑 かほる

倉地 裕子

小林 浩道(絵)

篠原 泉

辻 恵美

協力

ルーテル学院大学 市川 一宏

高齢者総合福祉施設

アザレアンさなだ 宮島 渡

特定非営利活動法人

やじろべー 中澤 純一

(本文注釈・アドバイス)



大好きなおばあちゃん

① ぼくのうちはおばあちゃんとお父さん、お母さん、そしてぼくと妹のまりちゃんの5人家族です。おばあちゃんはいつも元気で朝早くから畑に出て野菜を作ったり朝ごはんを作ったり、ぼくや妹のまりちゃんとも、よく遊んでくれます。

おばあちゃんはいつも、おばあちゃんが作った野菜は、おひさまの味がするから、そのままかぶりついて食べてみると言っていたので、学校が休みの朝はぼくも一緒に畑に行ってトマトやきゅうりをとって、そのままかぶりついて食べるのが大好きでした。

そんなぼくをおばあちゃんはニコニコして見えていました。





②

おばあちゃんの得意技はお手玉です。ぼくが小さい時からおばあちゃんが作ったお手玉でよく遊んでくれました。ぼくもマネをしてやってみるけど、難しくて中々できません。

まりちゃんはまだ2歳なので、お手玉をかじったり放り投げたりするので、ぼくは「まりちゃん、ダメだよ」と怒ってばかりいました。

そんな時でもおばあちゃんは優しく笑ってまりちゃんを抱っこして、別のお手玉を持ってきて遊んでくれました。

ぼくもまりちゃんもそんなおばあちゃんが大好きでした。

注：認知症でも、今まで身体で覚えてきたものは初期の段階では容易にできます。

また、中度の状況であったとしても、きつかけや声かけの仕方、またちよつと手伝えば、単純な作業でしたらできます。このころのおばあちゃんに、もし認知症があったとしても、初期であったのであれば、お手玉がとても上手なのはそういうことなのです。





③

ある日、ぼくが学校から帰っておばあちゃんの部屋まで行くと中から話し声が聞こえてきました。

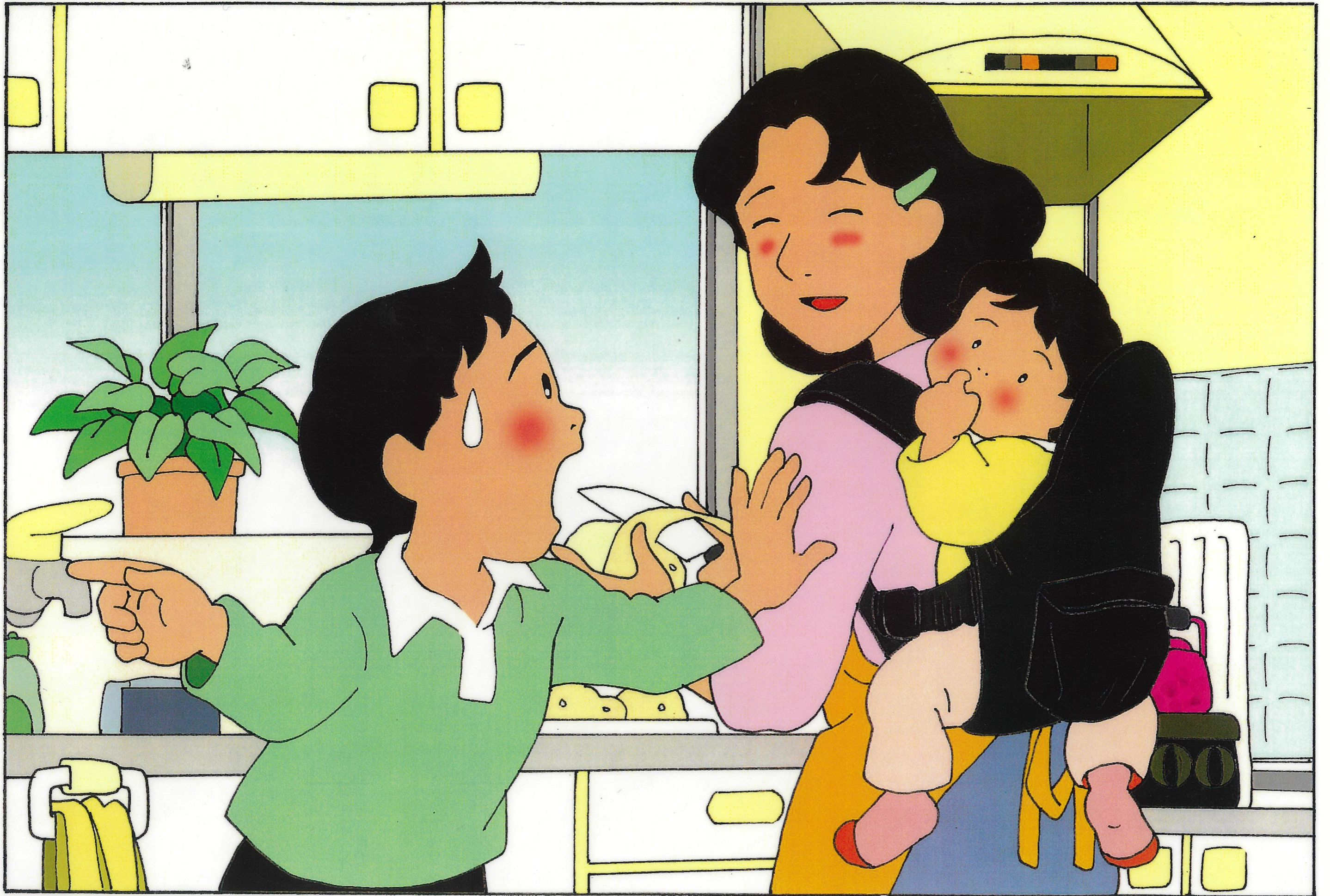
「おばあちゃん、ただいま！誰か来てるの？」と部屋の戸を開けると、お客さんはいませんでした。「おばあちゃん」とぼくが声をかけると、おばあちゃんは「こうちゃん、お客さんにお茶をだしてあげてちょうだい」と言いました。「お客さんはどこにいるの？」と聞くと、ぼくには何も言わずおばあちゃんは鏡に映っている自分に話しかけていました。



注：「こうちゃん、お客さんにお茶をだしてあげてちょうだい」と、こうちゃんに話しかける場面では、ちよつと戸惑いながら話しをしている姿を思い浮かべて表現してみてください。

この状態の時は、おばあちゃん自身お客は来ていると思っ
てはいるのですが、家族や周囲の反応から、自分自身何か変なことを言っ
てはしないかと戸惑いも同時
にあります。

この状態を鏡現象と言ったりします。自分の顔が理解できな
かつたり、もしくは幻視があつたりしている場合があります。
この状態が出ているときはかなり進んでいるか、何らかの、
せん妄の状態かもしれません。



④ ぼくはびっくりしてお母さんのところへ走って行き、「お母さ〜ん、おばあちゃん何か変だよ！お客さんなんていないのに、お客さんにお茶を持ってきてって言うんだよ」と話すと、お母さんは「そう？わかったよ。お母さんが持って行くからね」と答えました。

あれ？やっぱりどこにお客さんいるのかな？とぼくは不思議に思いました。

注：お母さんは「そう？わかったよ。お母さんが持って行くからね」の場面では、お母さんの戸惑いがあり、でも受け入れようとしている。そんな表現があると良いかもしれませんね。





⑤ そういえば時々、おばあちゃん変なことするな

あつて思うことがありました。

「トイレに行ってくる」といって外へ出て行っちゃったり、ぼくをお父さんと間違えたり、「飯を食べたばかりなのに」「飯はまだ？」って何回も聞いたりました。

その度にぼくは「ぼくはこういちだよー！こうすけはお父さんの名前だよ！」とか「おばあちゃん、飯はもう食べたじゃない」って教えてあげても時間がたつとまた同じことをしました。



注：トイレに行くと言って外に出るなどの間違え

↓見当識障害の場所がわからなくなる状態と、記憶の後退（認知症の物忘れは、現在から過去へと失っていく病気です。）から以前トイレが外にある生活をしていた場合外へ用をたそうとするかもしれません。

「ご飯まだ？」↓認知症の方は、おなかがいっぱいという感覚や反対に空腹といった感覚が鈍くなって来たりします。

そこに記憶障害（短期記憶（3〜5分前）が維持できない状況が加わると、混乱をされている姿も、見えてきます。

息子と孫の顔がわからない↓見当識障害の1つです。重度になってから起きてきます。

ただ、忘れると言っても自身にとって近しい人、いつも顔を合わせている大切な人は忘れる順序は最後の方です。名前を忘れても顔を覚えてい

る。顔を忘れても「この人は大切な人だ」という感覚で覚えています。



⑥ おばあちゃんは今々畑に出たまま帰ってこない
ことがありました。

ぼくはあちこち用事についているのかなって思っ
ていました。

お母さんは近所をさがしに行きましたが見つかり
ませんでした。夜になってお父さんが帰ってきて、
近所のおじさんや消防の人たちと一緒にさがしに
行きました。

ぼくは心配でたまりませんでした。



注：あちこち出かけてしまう↓このときのおばあちゃんの心は複雑
な状況にあります。今そんなことを考えなくても良いことや、
行動しなくても良いことでも、真剣に迷い行動します。

何故なら、今やっておかなければ、「忘れてしまうのではないか」
「困った状況にならないか」と不安が追いかけてくるようになって
いるからです。

ですから、その不安を取り除くがごとく、動き出すのです。大切
な事はその「仕事」が片づけられるように途中で遮らず、一緒に
済ませてしまう事が大切です。

また、帰ってこれなくなってしまうのは、見当識障害の1つで場
所の感覚がわからなくなってしまうからです。どちらが北なの
か南なのか？自宅の方向はどちらなのか？そんなことが一つ一
つわかりにくくなっているのです。



⑦ 夜中になっておばあちゃんはお父さんと近所の人たちと一緒に帰ってきました。お父さんはおばあちゃんを叱っていました。

ぼくがおばあちゃんに「どこに行つてたの？すごく心配したんだよ」と言つと、おばあちゃんは「おじいちゃんの病院だよ」と言いました。

おじいちゃんはもういないのに……。



注：亡くなったおじいちゃんの病院へお見舞いに行こうとしていたおばあちゃんは、ここでも記憶障害に悩まされています。数年前に亡くなられたおじいさんをお見舞いに行こうとするおばあちゃんの思いの中には、混乱や寂しさから大切な人、自分をわかってくれる人。「おじいさんに会いたい！」という想いが心の中に湧いてきて、記憶障害から来る記憶の後退から、本人はまだ生きていると思ってしまう。出かけてしまったのでしよう。

また、お父さんは叱っていますが、本人は道に迷ってしまったていて、不安と困惑の中にいるのでどんなに叱っても「叱られている」という事はわかっていても、その正確な意味は理解できていない場合が多く、叱られたという行為だけが残ってしまいます。

結果、隠れて出て行こうとしたり、叱られたことで部屋にこもってまったりと、違うかたちで周辺症状が出てきたりします。



⑧ 次の日、お母さんがぼくに話してくれました。おばあちゃんは脳の病気なんだって。認知症といつて新しい記憶がなくなって時間や場所がわからなくなったり、物の使い方がわからなくなったり、人や自分のことが分からなくなってしまいう病気なんだって。



ぼくはなんだかこわくなりました。おばあちゃんが病気だったなんて。自分のこともわからなくなってしまうなんて。だから鏡の中の自分をお客さんだと思ってたんだ。

ぼくはおばあちゃんがどんどん違う人になっていくみたいで少し不安になりました。

でもお母さんはぼくに優しく言いました。

注：この場面ではとても大切な事が表現されています。

それは、母親が子供に、ちゃんと認知症の

事を話していることです。親が子供に大切な話をしていく事で子供はその意味を充分理解できなくとも、その真剣な姿は子供の心に確りと伝わってきます

子供も一家族として自分のできる事を考え親やおばあちゃんへのケアの担い手として動き始めます。子供が持つ高齢者（祖父母も含めて）へのイメージは、両親の発言や行動で作られていく傾向があります。同居・非同居の場合でも高齢者のイメージの違いが出てきます。私たち大人の姿が次の時代（私たちが看てくれる世代）の未来が決まってくるということです。よく、子供に教えて親を啓発しようといいますが、それでは駄目です。子供に教わろうとする親はどれだけいるでしょう？反発心から子供が学んだ事を否定的に説明する自分がいませんか？



⑨ 「でもね、できなくなった事もわからなくなってしまうた事もいろいろあるけど、おばあちゃんのいい所は何も変わっていないんだよ」

「時々、昔に戻っておじいちゃんの病院に行ってしまふこともあるけどね。こういちにはまだ難しくてもわからないかもしれないけど、お母さんもはじめの頃おばあちゃんが病気だつてわからなくて、なんでそんな事するの？つておばあちゃんをおこつたりひどいことを言ったりしちやつたの。お母さんが怒るとおばあちゃんとっても悲しそうな顔してね。誰だつておこられるのイヤだもんねおばあちゃんが病気だつてわかつてからいろいろ勉強してね、おばあちゃんに悪いことしたなつて反省したの。一番つらいのはおばあちゃんだもんね」

でも、周りの人たちが病気を理解しておばあちゃんを見守っていたら大丈夫だからね」

ぼくはお母さんの話を聞いて、お母さんもおばあちゃんも大変だつたんだなあと思いました。

まだ病気のこととはよくわからないけど、元気に「うんっ」とこたえました。

注：介護者家族はいつも混乱の中にいます。お母さんはこの時点で乗り越えてきたように見えますが、またいつ混乱な状態になるかわかりません。そうした不安を持ちながらも頑張つて介護をしているという事が表現されると良いですね。

また、ぼくは、お母さんが大変だつたこと、大好きなお

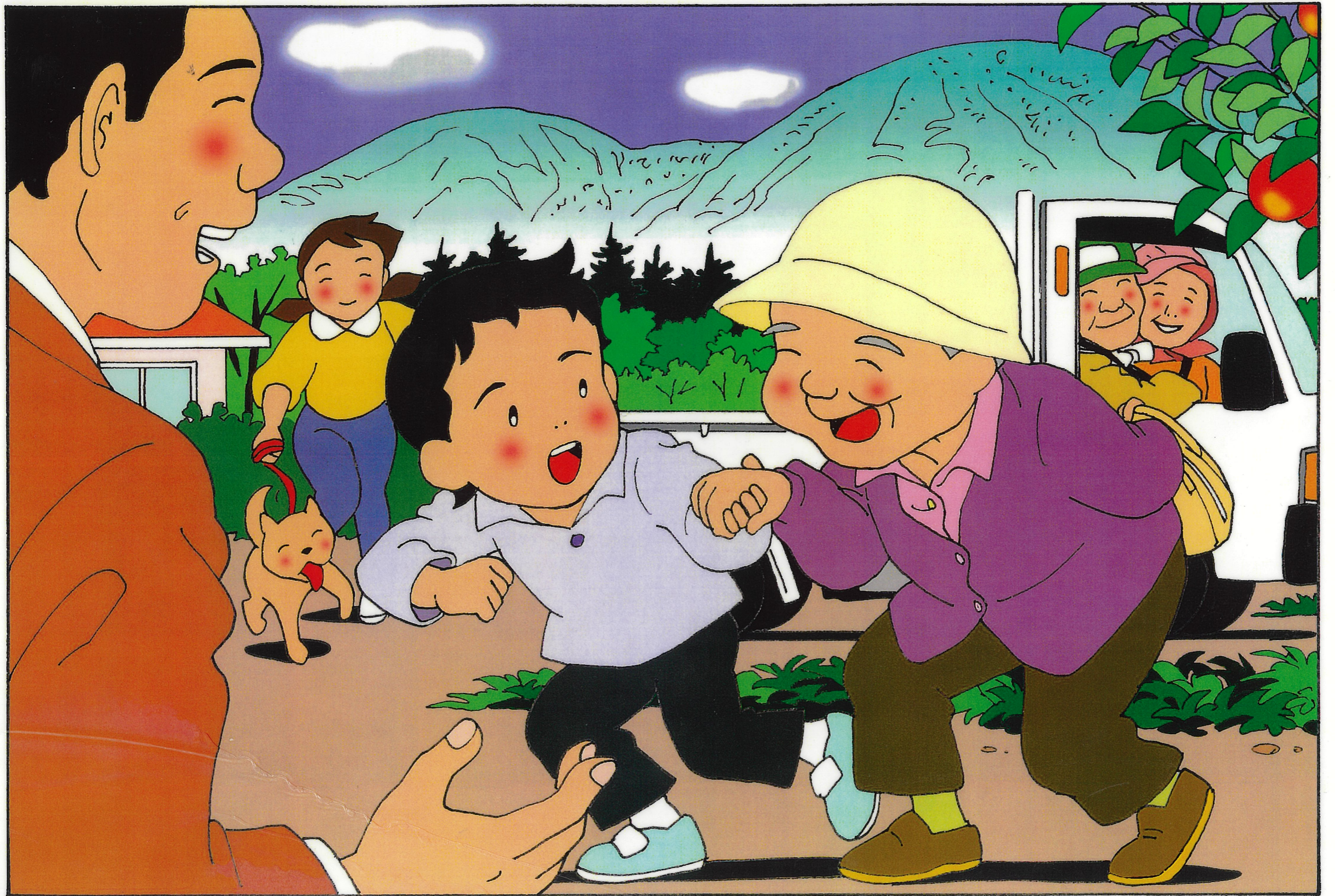
ばあちゃんが病気だつた事を子供なりに理解しようとしています。そんな表現ができるの良いですね。





⑩ おばあちゃんはちよつと前とは違つけど、お手
玉はぼくよりずっと上手だし、おばあちゃんが作
る野菜はとってもおいしい。
またおばあちゃんの所にお客さんが来たらぼくが
ちやんとお茶をだしてあげよう。





⑪ おばあちゃんがおいちゃんの病院に行きたくなったらぼくが手をつないで一緒に行ってあげよう。

おばあちゃんがひとりで迷子にならないように近所のおじちゃんやおばちゃんにもよろしくお願ひしますって言つて「よう」。

ぼくの大好きなおばあちゃん。ずっとずっと元気でいてね。

注・ぼくは、子供なりに自分でできる事を探しています。ぼくにできる事は？何ができる？と考えながら頑張つていこうとするぼくが表現できると良いですね。

ここでは、自分のできることは何なんだろうと、僕と一緒に聞いて下さる方への投げかけでもあります。

私にできる事は何なんだろう？と考えて頂くようにしたいですね。

また、ぼくが考えたように、身近にいるおばあちゃんに對して、背伸びした援助ではなく、自分ができる範囲の援助を考えていくことが大切です。

